

みやけの風

第 222 号

平成17年(2005年)5月14日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cipo.org

三宅島では春の穏やかな日が続いているようです。東海汽船の就航率も2月から完全に欠航となったのは1回だけ。着発となることもあります。ほぼ毎日のように竹芝を出発するボランティアが、三宅島につけずに帰ってきたことも数えるほどで、順調な派遣が続いています。昨日までに島に渡ったボランティアは延べ574名。これからも7月まで派遣は続きます。どうぞよろしくお願ひします。

みんなの声

社協です！

活気のある風景！

5月に入り時折強い日差しを感じるようになりまし。天気も良く過ごしやすい日が続いています。島の中では今も家の修理や庭の除灰、廃家財の運び出しといった生活の環境を整える方が多くいます。その一方で畑に行くお年寄りの姿や、釣りやダイビングを楽しむ観光客も見かけるようになり、一歩、一歩、元の姿に戻ろうとしています。また、商店や事業所が再開したことで帰島した島の人が集まるようになり、住民の交流の場として活気を感じる事が出来るようになりまし。

社会福祉協議会の動き

さて、三宅島社協では皆さんの帰島に合わせ、2月1日より阿古中学校に事務所を開設しました。当初は、職員5名で帰島された方々への応急対応を中心に活動していましたが、現在は、避難前の事業再開を目指し日々活動しています。4月1日からはヘルパー事業も再開し、現在は4名のヘルパーが利用者の方々の家を訪問させていただいています。

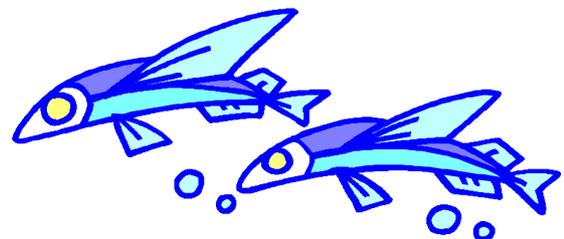
また、電動ベッドや車椅子、ポータブルトイレといった福祉用具の貸し出しも行っています。今後も帰島を希望される方で、福祉用具の貸出を利用されたい方はお早めにご相談下さい。

島の中では赤い帽子がトレードマークとなったボランティア（三宅島支援センター）への協力を行いながら、島民の方々が安心して帰島できるよう努力しています。

住民と共に...

島に戻り張り切りすぎて疲れてしまう方もいるようです。まずは無理なく身体と相談しながら生活してみてもいいでしょうか？これからも社協は島の皆さんと共に進んで行きたいと思っています。

(三宅島社会福祉協議会 早川 信)



福祉に関するご相談は、お気軽に三宅島社協へ

三宅島社会福祉協議会 三宅村阿古497三宅村役場内
 TEL：04994-5-7051 FAX：04994-5-7054

三宅村中央診療所より

中央診療所では、以下の日程で、各専門医に来ていただいて『特別診療』を行います。特別診療の受診は予約制になっておりますので、あらかじめお電話でお問合せください。

日にち	特別診療科目
5月18日(水)	呼吸器科
5月19日(木)	産婦人科
5月21日(土)	精神科

*診療時間 9:00~12:00

三宅村中央診療所 TEL 04994-2-0016

三宅島帰島支援ボランティア現地活動報告

三宅島は今、5月の風が薫り、木々の新緑がやさしく島を包み、青い海はおだやかにたゆたっています。この日は36名のボランティアが6班に別れ、阿古、神着、伊豆など、ボランティアを必要とされるそれぞれのお宅でお手伝いをさせていただきました。

帰島後間もないお宅では、屋内清掃や障子張りの準備、家の中の整理が終わったお宅では、庭の除灰やカヤ刈がその内容です。

支援活動の現場に行き、初めて、傷んだ家の様子や庭に生い茂ったカヤを見て、ボランティアは一様に、4年半を超える避難生活の大変さとともに、帰島された島民の皆さんが必ず言われる、「この島が私のふるさとです」という言葉に、島民のみなさんの三宅島への強い愛情を感じています。

あるお宅で除灰作業をしたボランティアの活動報告の一部です。

「どのお宅でも言われることですが、『ありがとう』のひとつをたくさんいただきます。でも、私たちボランティアは、このよう

な出合いをいただき、これからも三宅島の島民のみなさんとの交流を深めたいと思いに繋げてもらえる、暖かい島の人たちの笑顔に私のほうこそ『ありがとう』をたくさん言いたいと思います。」

そして、その笑顔とありがとうで、明日からもがんばれる元気をもらっています。明日も赤帽をかぶって、島の人に元気と笑顔を届け、島のひとから元気と生活することの大切さを学ばせていただきたいと思います。

5月12日

三宅島支援センター三宅島事務所にて
生原 勇

